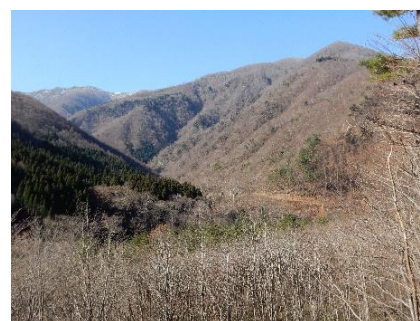
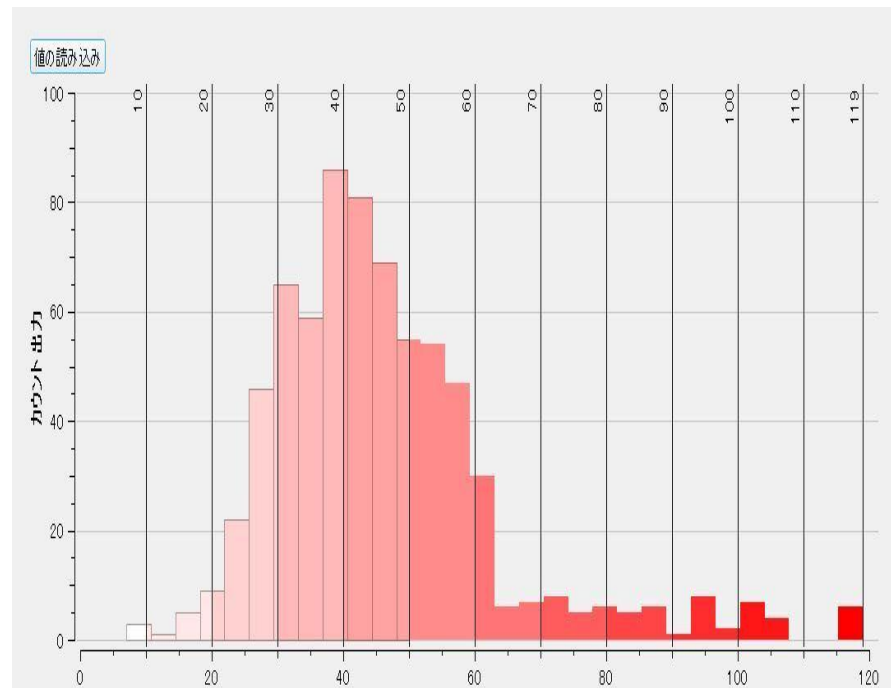
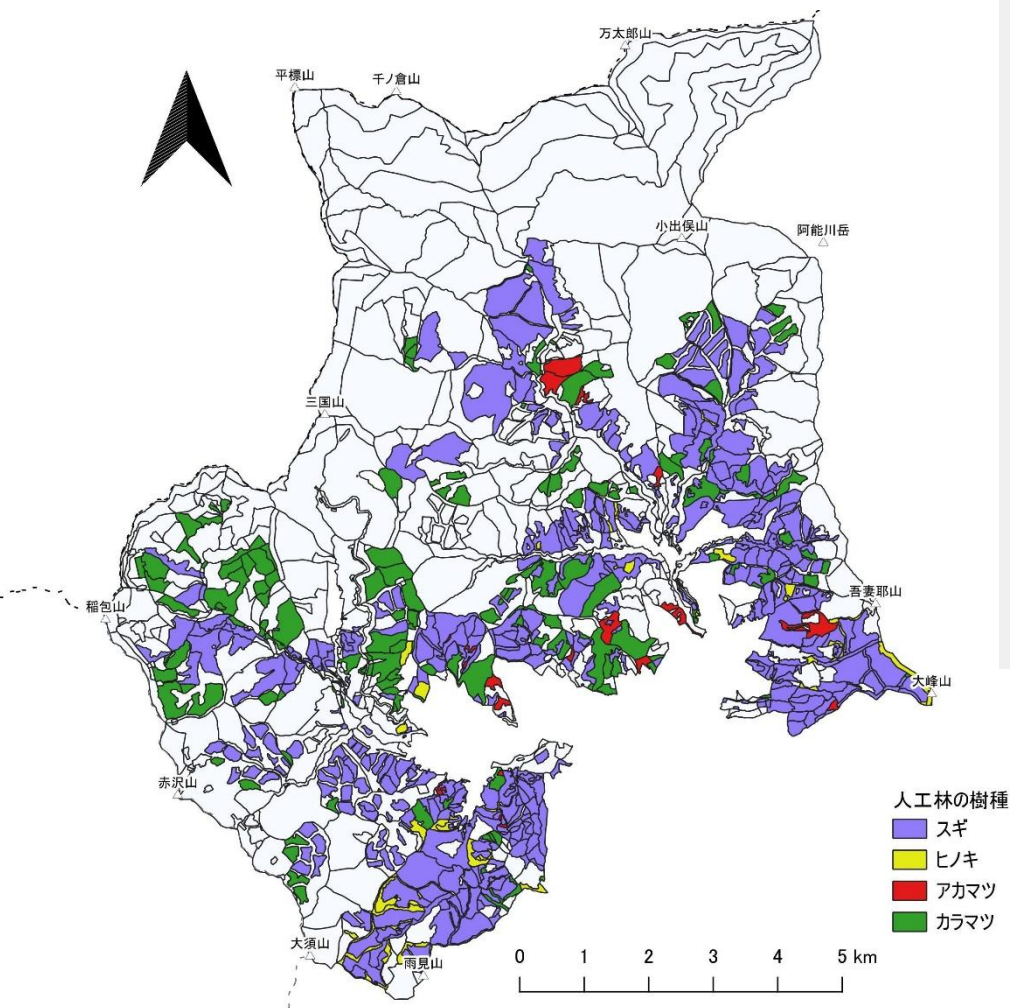


自然林の復元（ネイチャーポジティブ）

増やしすぎた人工林を、本来その場所にあった自然の林へ



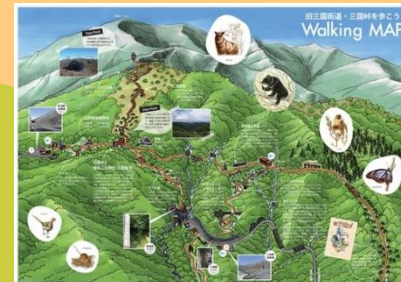
人工林の割合を現在3割→1割に減らす

赤谷プロジェクトの取り組み(ネイチャーポジティブ)

A. 生物多様性の復元



B. 持続的な地域づくり



C. 科学的な 森の管理



D. 「国民の森」の管理
(赤谷プロジェクト)
に参加する機会と仕組み

E. 科学的な成果や取り組み
の波及・発信
(モデルプロジェクトとして)

種数の変化

生息地サービス
人工林から自然林への復元

スギ林

間伐

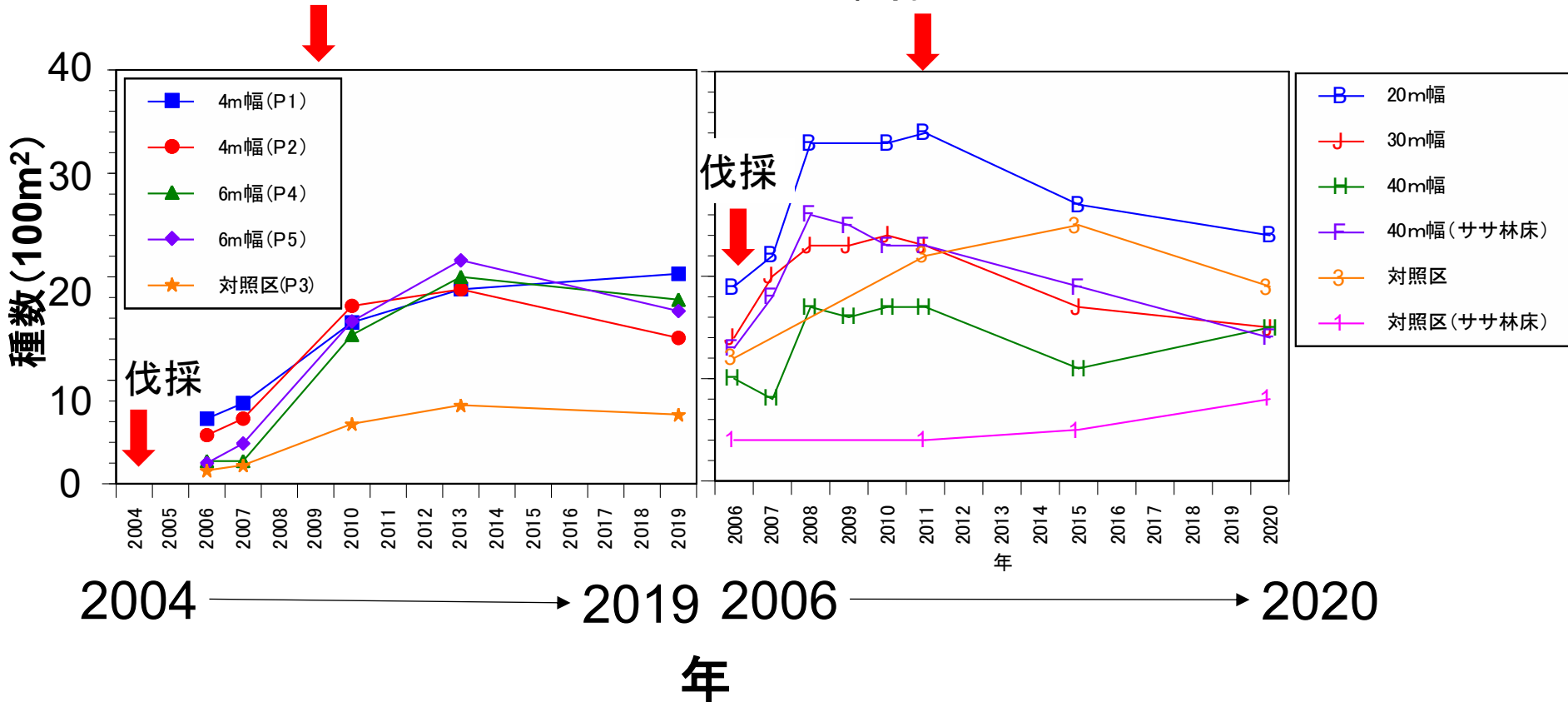
伐採後5年

カラマツ林

帯状伐採

複層伐

伐採後5年



森林の水源涵養能力の推定

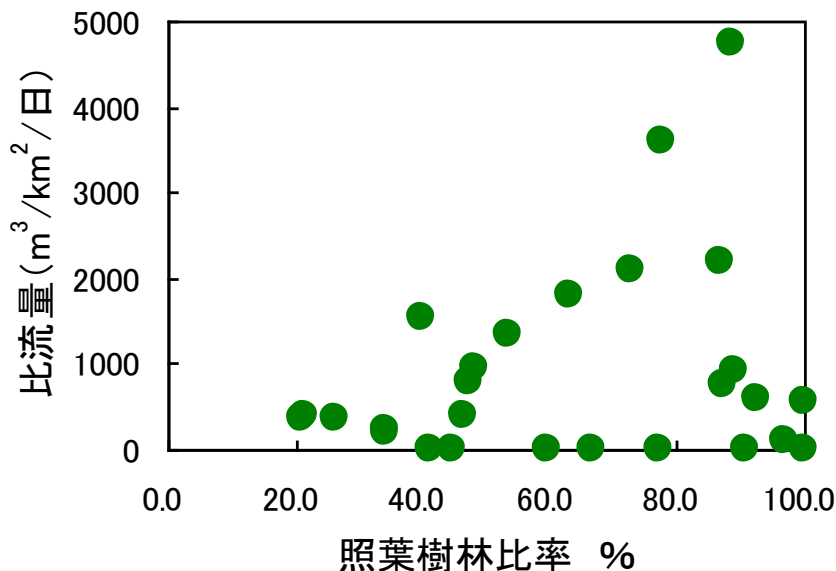


図1 綾南川および綾北川に注ぐ溪流の比流量と集水域の照葉樹林率
(2006年11月23日、24日観測)

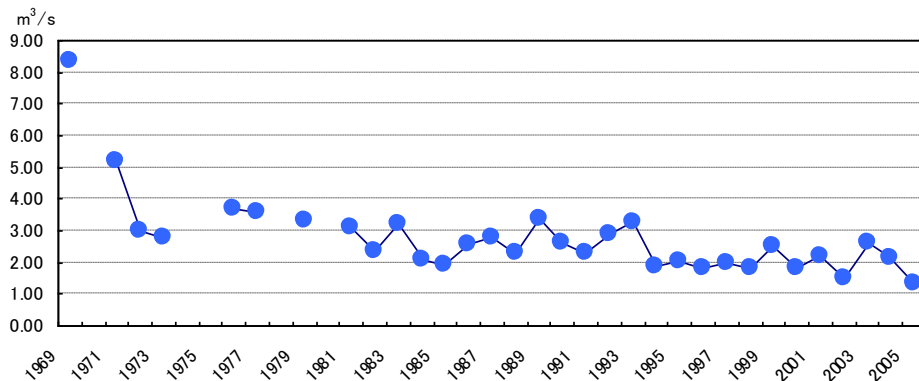


図2 綾南川の平水流量(185日水位)の経年変動
(国土交通省 綾南橋観測所データを元に作成)

適度に流出

照葉樹林の割合が高い溪流ほど、流出水量が多い傾向を示唆する。
人工林が多いほど出てくる水の量が少ない。

Hayashi et al. (2011)Hydrological Research Lettersより改変

森林の更新に関わる要因

更新制限要因

1. 伐採幅の違い(光制限)
2. 伐採木の処理方法(物理的阻害)
3. 自然林からの距離の違い(種子散布制限))
4. 人工林の履歴(1代目/2代目)の違い(更新素材不足、土壌劣化)
5. 広葉樹保残(更新補助、種子散布)
6. ササの有無(光制限など更新阻害)
7. 皆伐の際に生物多様性復元に配慮した伐採、再造林の方法
(更新素材を保存する)
6. 針広混交林の取り扱い(不成績造林地、伐採方法)
7. 植栽や除伐による復元等における多様な主体の参画(更新補助作業)

指標

種数、個体数、幹数、胸高直径(DBH)、樹高、材積(BA)、RBA

復元を阻害する要因への対応

一斉林



ミツバウツギ林

2019年9月19日 赤谷の森 600m付近



2019年12月9日 赤谷の森 600m付近



クワ林

2018年9月13日 赤谷の森 600m付近



スギ林

2019年9月25日 赤谷の森 900m付近